

1. ころが通じるコミュニケーション支援

(1) 地域における情報の多言語化

- ① 多言語による行政・生活情報の提供
- ② 外国人住民のための相談窓口の設置、専門家の養成
- ③ ★「やさしい日本語」等の普及
- ④ ★多言語案内表示の普及
- ⑤ さまざまな主体との連携による情報提供

評価（案）

生活情報や生活相談窓口については、平成27年度よりタガログ語を追加するなど、生活実態にあわせた対応を行っている。

一方、提供した情報がどこまで外国人住民に情報が浸透しているのか、そのリーチが掴めていないこと。外国人住民の情報チャンネルへのアプローチも十分に辿り着けていないことも課題となっている。

翻訳・多言語対応については、実務者との意見交換の場を数回設け、その内容を土台にした「翻訳・多言語対応ガイドライン」の策定を進めた。また意見交換による参加者どうしのネットワークも生まれた。

具体的な取組

多言語での生活情報誌の発行
外国人相談窓口の設置
「カエルプロジェクト」への協力
滋賀県翻訳・多言語対応ガイドラインの策定

【今後の課題】

- ・ より効果的な生活情報発信、相談対応のあり方
- ・ より具体的な多言語案内表示・やさしい日本語の普及

1. ころが通じるコミュニケーション支援

(2) 日本語および日本社会についての 学習機会の提供

- ① 日本語学習機会の提供
- ② 日本語ボランティア指導者の人材育成
- ③ 日本語教室への支援

評価（案）

地域日本語教育の実態や対応について、一部ではあるが市町との意識共有を進めることができた。文化庁地域日本語教育プログラムについても甲賀市・高島市で実施できる見通しで、日本語教育空白地域の把握や調査を市町・県・国間で連携して進める土壌ができつつある。

一方で、地域日本語教育の担い手については依然ボランティア頼みになっており、その運営持続化が喫緊の課題となっている。

具体的な取組

市町における日本語教室の開催（市町国際交流協会や民間団体の取組として）
文化庁地域日本語教育プログラムの活用促進
「BNN外国人による日本語スピーチ大会」への協力

【今後の課題】

- ・ 増加する外国人住民に対する、地域日本語教育の担い手育成

2. 安心して暮らせる生活支援

(1) 安心して働ける・暮らせる環境整備

- ① 多言語による労働関係情報の提供
- ② 外国人住民を対象とした職業能力開発の支援
- ③ ★多文化共生推進のための啓発
- ④ ★安心して暮らせる入居支援

評価（案）

職業訓練や外国人介護職員養成については就業に結び付くなど一定の成果が出ている。

その一方、外国人雇用状況に関する情報は厚生労働省所管であり、国と県市町との間での情報共有がじゅうぶんに取れていない。その結果、地域において外国人就労の実態把握ができない状況にある。

またシガインターナショナルハウスについては、建物の老朽化を背景に平成30年度末に閉鎖の見込み。

具体的な取組

定住外国人向け職業訓練の実施
外国人介護職員の養成
住宅確保要配慮者の円滑な入居促進
シガインターナショナルハウスの運営
ブラジル移動領事館の開催協力

【今後の課題】

- ・ 就業支援に関する厚生労働省等との密な連携
- ・ 外国人住民のキャリアパス支援のあり方

2. 安心して暮らせる生活支援

(2) 教育環境の整備

- ① 外国人児童生徒等日本語指導対応加配教員の配置等
- ② ★外国人児童生徒等の受入体制の整備
- ③ 外国人児童生徒等の教育に関わる課題や施策についての情報交換
- ④ 外国人児童生徒等の教育に携わる教員の研修
- ⑤ 児童生徒への多文化共生社会に対応する国際理解教育の推進
- ⑥ ★進路支援への取組み
- ⑦ ★外国人児童生徒等の支援に取り組む市民活動の推進
- ⑧ 外国人学校の法的地位の明確化の推進
- ⑨ 体験学習支援

評価（案）

教員や支援員等の派遣は継続的な対応が必要。

一方で、学齢超過の子供を対象とした「定住外国人の子供の就学促進事業」はその事業継続の足掛かりがつかっていない。

国際理解教育については需要が向上し、想定以上の出前講座を実施している。また各種学校の体験プログラムも積極的に連携が取れている。

具体的な取組

教員加配、非常勤講師、支援員の派遣
初期指導教室の設置支援
学齢超過の子供を対象とした就学促進
高校進学ガイドブック作成、進路フェアの開催
大学生への奨学金
教職員の連絡会議、研修
国際理解教育の出前講座
各種学校の認可、各種学校の体験プログラム参加

【今後の課題】

- ・ 制度の溝にある子供の教育機会・進路相談窓口の確立

2. 安心して暮らせる生活支援

(3) 安心して利用できる 保健・医療・福祉体制の整備

- ① 多言語による社会保障等の情報提供
- ② ★相談・支援における保健・医療・福祉関係機関との連携
- ③ 外国語対応が可能な医療機関についての情報提供
- ④ ★外国人患者の受入体制の整備

評価（案）

医療機関に関する情報提供や医療通訳に関する対応はまだ不十分。

具体的な取組

エイズ・結核に関する通訳・カウンセラー雇用
ウェブを通じた外国語の通じる医療機関の情報提供
医療通訳人材育成に対する補助

【今後の課題】

- ・ 外国語の通じる医療機関のより効果的な情報提供
- ・ 医療通訳の環境整備
- ・ 外国人住民の高齢化に伴う福祉施策

2. 安心して暮らせる生活支援

(4) 災害時への対応

- ① 外国人住民に対する防災知識の普及啓発
- ② 防災訓練などへの参加促進
- ③ 災害多言語支援センターの開設
- ④ 広域的な災害支援体制の構築
- ⑤ 災害時外国人支援のための人材養成

評価（案）

災害時外国人サポーターは当初目標の100名を平成28年度末に達成したが、その継続的なサポーター養成が必要である。

なお、この2年間で新たに登録したサポーターは、情報ボランティアとよばれるICTのスキルに長けた者が多く、ICTの利活用による災害時外国人支援の模索が、サポーター主導で進められているところ。

一方で災害多言語支援センター設置に必要な、県国際協会との役割整理については長年の課題となっており、災害時支援の協定締結などに至っていない。

具体的な取組

「原子力防災のしおり」の外国語版作成
消防職員の外国人対応研修
災害時外国人サポーターの募集・養成

【今後の課題】

- ・ 災害時外国人支援の体制整備
- ・ 外国人観光客の災害時支援における観光事業者との連携

2. 安心して暮らせる生活支援

(5) 生活安全における支援の充実

- ① 地域安全対策の推進
- ② 交通安全対策の推進

評価（案）

交通ルールの理解促進や防犯意識の向上につながる事業を実施するなど、安心して暮らせる地域づくりへの対応が図られている。

具体的な取組

外国人少年を対象とした街頭歩道活動
外国人学校との情報交換
コミュニティFMを通じた生活安全広報
技能実習生や留学生等を対象とした防犯教室の開催
運転免許取得・講習に関する外国語サポート

【今後の課題】

- ・ 外国人技能実習法や新たな入国管理制度に関する関係者間の情報連携

3. 活力ある多文化共生の地域づくり

(1) 地域社会に対する意識啓発

- ① 多文化共生の意識づくりに向けた啓発
- ② 多文化共生意識を持った行政職員の育成
- ③ 交流の場づくり

評価（案）

県が実施した多文化共生講座においては、特にこの2年間で、これまで多文化共生に関心のなかった人々への巻き込みを図ることができ、県民レベルでの新たな多文化共生の集まりやイベント、事業などが生まれた。

ただ、今年度滋賀県が行った県民モニターアンケートでは、多文化共生に関する意識に大きな変化は見られなかった。講座を通じて新たな主体を形成することには成功したが、一般層への浸透には至っていない。

具体的な取組

多文化共生講座の開催
広告や街頭啓発による人権啓発活動
県職員の多文化共生研修
市町多文化共生ワーキングの開催

【今後の課題】

- ・ 新たに関心をもってくれた層が、実際に外国人住民との交流を図れるような取組みの推進
- ・ 多文化共生の意識啓発の裾野を広げる取組み

3. 活力ある多文化共生の地域づくり

(2) 外国人住民における自立と社会参画

- ① 社会活動への参加促進
- ② ★地域で活躍する外国人住民の情報発信

評価（案）

地域における外国人の活躍については、外国人留学生に対する機能別消防団員の任命など、市町での取組が進んでいる。また地域で活躍する外国人が県内には数多くいるなか、彼らの取組を随時報道機関などに紹介するなどして、広報を行っている。

一方で、日本の法令を知らないことで、日本の地域社会に参画できない外国人コミュニティがいることも把握しているが、そういった外国人コミュニティへのアプローチは十分にできていない。

具体的な取組

市町間の情報共有や、情報提供

【今後の課題】

- ・ 外国人の人材発掘と活躍できる場の橋渡し

3. 活力ある多文化共生の地域づくり

(3) ★多様性を活かした地域づくり

- ① ★多様性を活かした地域づくり
- ② ★地域で活躍する外国人住民の情報発信 *再掲

評価（案）

地域づくりにおいては各市町において取り組まれており、県では適宜市町間の情報共有を図るとともに、外国人向け生活情報紙「みみタロウ」や、適宜メディアへの情報提供を通じて発信する役割を担っている。

具体的な取組

市町間の情報共有や、情報提供

【今後の課題】

- ・ 市町間の課題共有